

2 研究の実際

(5) 検証授業の分析

ア 表現領域の3分野の関連を図った題材構成の工夫について

検証の視点1

表現領域の3分野の関連を図った題材構成を工夫したことで、児童は、「音楽の縦と横の関係」を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすことができたか。

《 全体考察 》

第6学年の2つの学校の児童50名を対象とした実践の結果を検証します。

① 表現領域の3分野の組合せと配列の工夫

結果と考察

《1時目》聴き取り、感じ取り

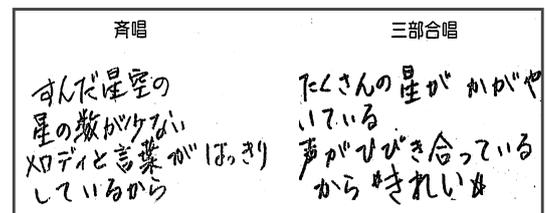
和声的な旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出す和声の響きの美しさを感じ取る。

資料1は、1時目に児童がワークシートに記述した内容の一部です。この児童のように、「星の世界」の三部合唱を聴いて、「響き合う」「溶け込む」「ハーモニー」の言葉で和声の響きの美しさを表現できている児童は、図1のとおり全体の94%でした。これらの児童は、和声の響きを聴き取り、その美しさを感じ取ることができた児童と考えられます。これは、「星の世界」の斉唱と三部合唱とを比較聴取させ、それらの響きの違いを意識させた成果と考えます。

さらに、1時目で、「星の世界」のよさについて、資料2のように「旋律が1つになる部分と三部合唱の部分がある」と考えた児童は、図2のとおり98%でした。これらの児童は、和声の響きだけでなく、旋律の重なりも聴き取ることができており、音楽の縦と横の関係を聴き取ることができたと考えられます。

また、児童の感想には、「歌い方を考えるとき、『いつでもあの海は』の学習が役だった」(48%)という記述があり、既習内容の振り返りは、音楽の縦と横の関係を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かす学習に役立ったと考えます。

これらのことから、児童は和声的な旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出す和声の響きの美しさを感じ取ったと考えます。



資料1 児童のワークシート（1時目）

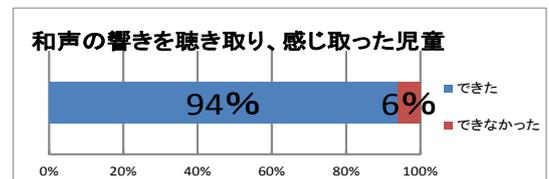
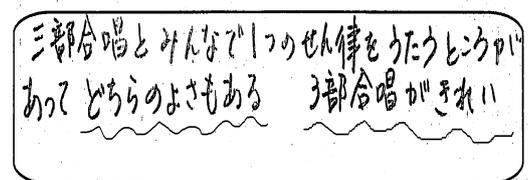


図1 和声の響き（1時目）



資料2 児童のワークシート



図2 音楽の縦と横の関係（1時目）

《3時目》表現する

和声的な旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出す和声の響きの美しさを感じ取り、表現に生かす。

資料3は、3時目に児童がワークシートに記述した内容の一部です。このように、「声が響き合う」「声が溶け込む」ような美しい和声の響きになるように、どのようなことに気を付ければよいのかを全ての児童が考えて練習することができました。

また、「声が響き合う」「声が溶け込む」ための歌い方について、3つ以上、気を付けることを見だし、記述できている児童は、図3のように、全体の98%でした。これらことから、児童は、「星の世界」の1時目に聴き取り、感じ取ったことを、どのように表現に生かせばよいのか自ら考え、理解した上で、それらを表現に生かすことができたと考えられます。

工夫するポイント	気を付けること
1つのせんりつに合わせるところは地声にならないようにする。	「うらめしや〜」の声にしてやさしくうたう。あくびの口

資料3 児童のワークシート（3時目）

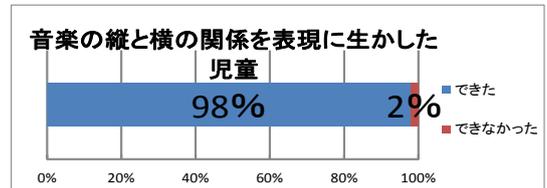


図3 音楽の縦と横の関係（3時目）

《4時目》聴き取り、感じ取り

イ短調とハ長調の和音の響き、和声的、多声的な旋律の重なりを聴き取り、和声の響きの美しさを感じ取る。

資料4は、4時目に児童がワークシートに記述した内容の一部です。このように、「雨のうた」のアとイの調による和声の響きの違いに気付くことができたのは、全児童でした。また、イ短調は暗いイメージ、ハ長調は明るいイメージという感じ取りも、図4のとおり全児童ができており、調の響きを比較しながら聴くことで、比較的簡単に、その違いは感じ取ることができたと考えられます。

また、主な旋律と副次的な旋律の重なり方について、和声的、多声的な重なりの違いに気付いている児童は、図5のとおり94%でした。ワークシートの記述には、資料5のように、それぞれ旋律の重なり方について「追いかけた旋律」「同じリズムで重なっている旋律」という表現で区別をしている児童が多く見られました。これらの用語は、歌唱の学習（「星の世界」）で学んだもので、歌唱の学習で和声的な重なり方を学習した経験があったので、「雨のうた」の多声的な重なり方と多声的な重なり方の違いを見いだすことができたと考えられます。

これらのことから、児童はイ短調とハ長調の和声の響き、旋律の重なりを聴き取ることができたと考えられます。

また、歌唱の学習を器楽の学習に生かすことができたと考えられます。

雨の様子	雨の様子
はじめした くらい感じの雨	うれしい楽しい雨 やったー
理由	理由
和音が暗いから、短調	和音が明るい。長調

資料4 児童のワークシート（4時目）

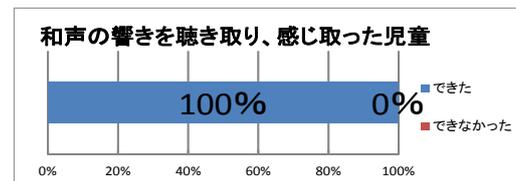


図4 和声の響き（4時目）

追いかけた旋律	同じリズム
---------	-------

資料5 児童のワークシート（4時目）

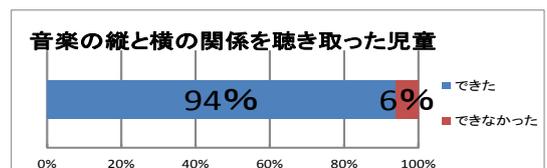


図5 音楽の縦と横の関係（4時目）

《6時目》表現する

イ短調とハ長調の和音の響き、和声的、多声的な旋律の重なりを聴き取り、和音の響きの美しさを感じ取り、表現に生かす。

資料6は、6時目に児童がワークシートに記述した内容の一部です。「雨のうた」の工夫のポイントについて「アとイの部分の速さを変えたい」など、アとイの表現に変化を付けたいと考えた児童は、全体の98%でした。これらの児童は、4時目で感じ取った調による和音の響きの違いを、6時目の表現に生かすことができている児童と考えられます。

また、「主な旋律が目立つように音量を工夫したい」「演奏のはじめをそろえたい」など、主な旋律、副次的な旋律、和音伴奏（低音、和音）の音楽の縦と横の関係を聴き取って、演奏の工夫を考えた児童は、図6のとおり全体の92%でした。

これらのことから、児童は、4時目に聴き取り、感じ取ったことを、どのように表現に生かせばよいのか自ら考え、理解した上で、それらを表現に生かすことができたと考えられます。

《7時目》聴き取り、感じ取り

I、IV、I、V7、Iと移り変わる和音、分散和音の響きを聴き取り、それぞれの響きのよさを感じ取る。

資料7は、7時目に児童がワークシートに記述した内容の一部です。このように、2つのパターンの和音伴奏を聴いて、「明るく元気な伴奏」「静かな伴奏」など、それぞれの和音伴奏の雰囲気の違いを感じ取った児童は、図7のとおり全体の96%でした。これらの児童は、音楽の縦と横の関係を聴き取り、感じ取ることができた児童と考えます。

これは、器楽の学習（「雨のうた」）で、和音と分散和音の演奏方法を工夫した経験から、児童が伴奏の演奏方法や雰囲気の違いに着目できたためだと考えます。このことから児童は、器楽の学習で学んだことを、音楽づくりの学習に生かすことができたと捉えます。

また、これらを基にして、2つのパターンの和音伴奏から、自分がつくりたい音楽に合った伴奏を選ぶことができたのは図8のとおり全児童で、聴き取り、感じ取ったことを、自分の音楽表現につなげることができたと考えられます。

工夫するポイント

気を付けること

アとイの速さを変えてアとイのイメージを変化させる。

アは少しゆくり、イは少し速く、指揮者を決めて練習する。

リフターが目立つようにバランスよくする。

オルガンが音を小さくして、全体のバランスを調節する。

資料6 児童のワークシート（6時目）

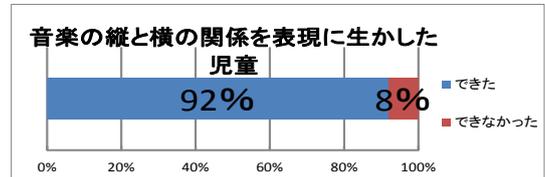


図6 音楽の縦と横の関係（6時目）

パターン①

元気でとびはねる感じ

パターン②

静かでしんみり
後ろにも伴奏がついている

資料7 児童のワークシート（7時目）

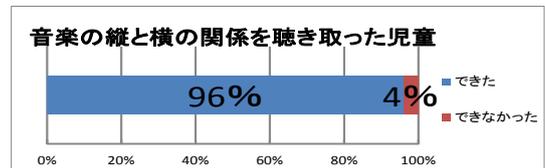


図7 音楽の縦と横の関係（7時目）

つくりたい音楽のイメージ

元気になる音楽

使う和音伴奏

パターン（①）

資料8 児童のワークシート（7時目）



図8 音楽の縦と横の関係（7時目）

《9時目》表現する

I、IV、I、V₇、Iと移り変わる和音、分散和音の響きを聴き取り、それぞれの響きのよさを感じ取り、表現に生かす。

資料9は、9時目に児童がワークシートに記述した内容の一部です。このように全員が2つのパターンの和音伴奏から自分の音楽表現に合う伴奏を選び、音楽をつくり出すことができます。つくりたい音楽に合う伴奏を選び、オリジナルの音楽をつくり出すことができた児童も図9のとおり全児童でした。さらに、和音と分散和音の両方を組み合わせて4小節の音楽をつくり出している児童も数名見られ、発展的な音楽づくりができている様子も見られました。

これらのことから、児童は、「音楽づくり」で、聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすことができたと考えられます。

以上のことから、「歌唱」の学習が「器楽」に、「器楽」の学習が「音楽づくり」に生かされ、また、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」のそれぞれで、聴き取り、感じ取ったことが表現に生かされたと考えられます。このことにより、題材構成の工夫は有効だったと考えます。

はつらつした音楽

パターン (①)

資料9 児童のワークシート（9時目）

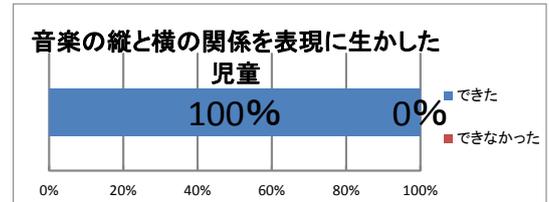


図9 音楽の縦と横の関係（9時目）

《全体の考察》

②「音楽づくり」における指導過程の工夫

《7時目》

図10は、和音、分散和音の2つの伴奏を比較聴取した際に、それぞれの伴奏の違いを聴き取り、感じ取ることができた児童の割合を示したものです。94%の児童が、伴奏の仕方の違いが生み出す雰囲気の違いに気付くことができます。しかし、6%の児童は、「どちらも変わらない」という気付きをもっており、その違いに気付くことができていませんでした。このことから、比較聴取を行う前に、4～6時目の学習を再度振り返らせ、和音と分散和音の違いを確認させる必要があったと考えられます。

しかしながら、図11では、全ての児童が、伴奏から感じ取ったことを基に、つくりたい音楽に見通しをもつことができています。これは、学級全体で、それぞれの伴奏の雰囲気について共通理解をする場面を設けたことにより、全ての児童が伴奏の特徴を理解できていたためと考察されます。

《8時目》

図12は、自分のつくった音楽にタイトルを付けることができた児童の割合を示したものです。前時で、「明るい音楽をつくりたい」という見通しをもっていた児童が、「はずんでいる気分の朝」とタイトルを付けたり、「静かな音楽をつくりたい」という見通しをもっていた児童が「夜の星空」とタイトルを付けたりするなど、児童の思いが深まっているタイトルが多く見られました。

しかし、6%の児童がタイトルを付けることができていません。これは、表現の工夫から、タイトルが時間内に思い浮かばなかったためだと考察されます。

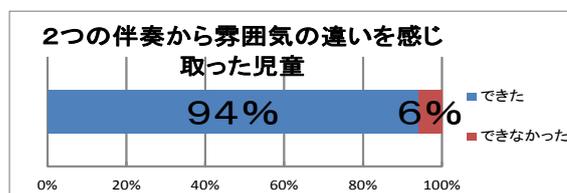


図10 違いを感じ取った児童(7時目)



図11 見通しをもった児童(7時目)

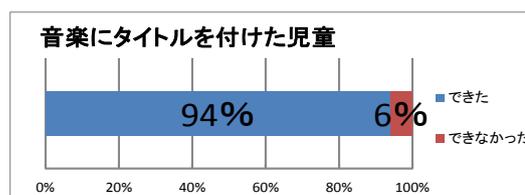


図12 タイトル付け(8時目)

また、図13のとおり、タイトルと表現の工夫を結び付けていない児童が10%いることから、タイトルと表現の工夫を結び付けるための個別の助言やグループ交流を増やすなどの手立てが必要だったと考えられます。このことで、更に児童の思いや意図を深めることができたと考えられます。

《9時目》

図14は、9時目において、自分の音楽にタイトルを付けることができた児童の割合を示したものです。全児童が自分の音楽にタイトルを付けることができおり、自分の思いをもって、音楽づくりに取り組むことができたと考察されます。7時目と8時目で学習したことを基に、音楽づくり全体に見通しをもつことができ、思いや意図を膨らませる時間的な余裕があったと考えられます。

また、9時目では、図15のとおり、全児童が、タイトルと表現の工夫とを結び付けることができています。7時目と8時目で学習したことを活用して、思いや意図を表現する技能を習得できたと考察できます。

また、9時目で児童が付けたタイトルは、身近な生活から考えたものが多くなっており、タイトルと表現の工夫が、より具体的な関係になっていると考えられます。そのことによって、児童が互いに、音楽表現の工夫に共感できたとも考察できます。

図7は、題材の学習後にとったアンケート結果です。90%の児童が、自分のつくった音楽に満足している一方で、10%の児童が満足していないと回答しています。その内容は、「もっと長い音楽をつくりたい」(6%)、「副旋律をつくりたい」(2%)、「違う楽器で演奏したい」(2%)など、発展的な取り組みを望むものでした。音楽の縦と横の関係を聴き取り、感じ取る力が優れている児童には、更に発展的な学習に取り組ませる必要があったと考えられます。

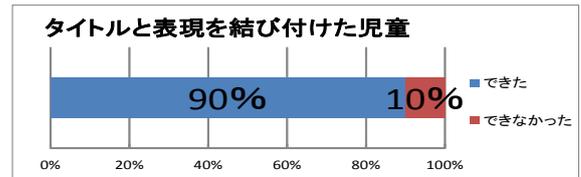


図13 タイトルと工夫の結び付け(8時目)

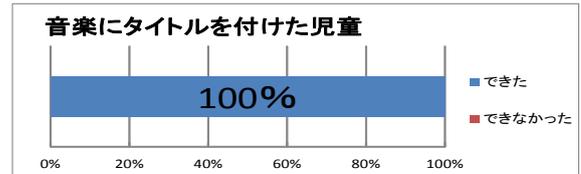


図14 タイトル付け(9時目)

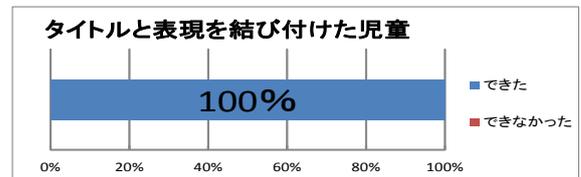


図15 タイトルと工夫の結び付け(8時目)

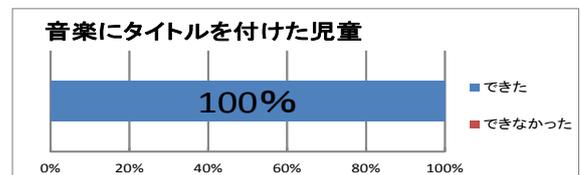


図16 タイトル付け(9時目)

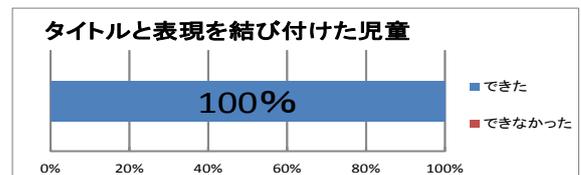


図17 タイトルと表現の結び付け(9時目)

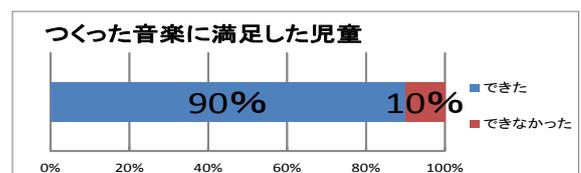


図18 つくった音楽に満足した児童

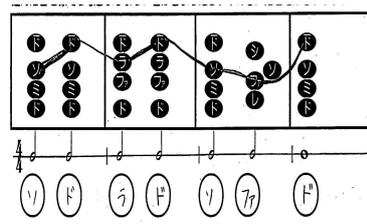
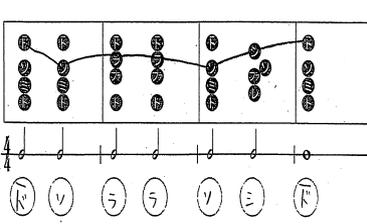
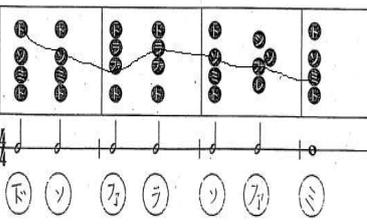
しかしながら、聴き取り、感じ取ったことを表現に生かす力には、大きな個人差が見られました。これは、日頃から合唱練習に取り組んでいたたり、楽器の練習に取り組んでいる児童が、「歌唱」や「器楽」における音楽の縦と横の関係を聴き取り、感じ取る力が高かったためだと考えられます。したがって、「音楽の縦と横の関係」を取り上げた指導を行う場合は、事前に児童の実態把握を行って、個人差に十分配慮したペアやグループ編成を工夫する必要があると考えます。また、音楽の縦と横の関係を聴き取る力が高い児童の気付きや工夫点を、学級全体で取り上げ、それらを全員で共有できるような学び合いの過程を大切にした授業展開となるように、授業を工夫する必要があると考えます。

《 抽出児童からの考察 》

②「音楽づくり」における指導過程の工夫

二人でつくる段階（7時目）

※ は、教師の見取りです。

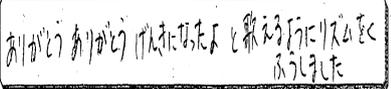
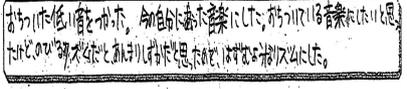
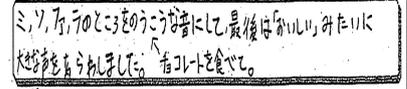
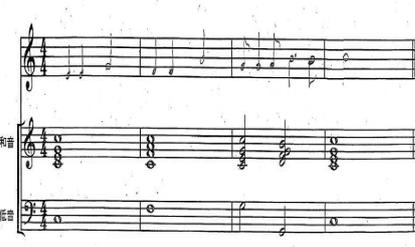
A児	B児	C児
2つのパターンの伴奏（和音・分散和音）から、雰囲気の違いを感じ取っているか。		
<p style="text-align: center;">パターン①</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">元気でとびはねる感じ</div> <p style="text-align: center;">パターン②</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">静かでしんみり 後ろにも伴奏がついている</div>	<p style="text-align: center;">パターン①</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">明るい伴奏だ、ホ、元気</div> <p style="text-align: center;">パターン②</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">しずかな伴奏だ、ホ。</div>	<p style="text-align: center;">パターン①</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">①はアツクカ強い音</div> <p style="text-align: center;">パターン②</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;">すごく明るくてやさしい音</div>
①は元気でとびはねる感じ、②は「しんみり」と感じ取り、後奏があることも捉えています。	①は元気な感じがするのに対し、②は静かな感じがすることを捉えています。	①は力強い感じがするのに対し、②はやさしい感じがすることを捉えています。
自分のつくりたい音楽に合った伴奏を選び、音楽づくりに見通しをもつことができているか。		
<p style="text-align: center;">つくりたい音楽のイメージ</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">元気になる音楽</p> <p style="text-align: center;">使う和音伴奏</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">パターン（①）</div>	<p style="text-align: center;">つくりたい音楽のイメージ</p> <p style="text-align: center;">楽しい感じ、はずむ感じ</p> <p style="text-align: center;">使う和音伴奏</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">パターン（①）</div>	<p style="text-align: center;">つくりたい音楽のイメージ</p> <p style="text-align: center;">明るくてやさしく、きれいな音楽</p> <p style="text-align: center;">使う和音伴奏</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">パターン（②）</div>
「元気になる音楽」をつくりたいので、①の元気な感じがする伴奏を選んでいきます。	「楽しい、はずむ」ような音楽をつくりたいので、①の伴奏を選んでいきます。	「明るく、やさしく、きれいな音楽」をつくりたいので、②の伴奏を選んでいきます。
旋律と表現の工夫を関連付けることができているか。		
 <p style="margin-top: 10px;">工夫したこと</p> <p>ソの音が元気がよくなると思われました。</p>	 <p style="margin-top: 10px;">工夫したこと</p> <p>高い音をつくと、明るい感じにした。</p>	 <p style="margin-top: 10px;">工夫したこと</p> <p>1度の和音と4度の和音のつなぎを明るくして 5度の和音と1度の和音をだましくきれいに上げていく工夫をしました。</p>
最後の「ソ」「ファ」「ド」で終わると元気な感じになることを発見し、旋律を工夫しています。	高い音を使うと「明るく、楽しい感じ」になると感じ、旋律を工夫しています。	前半で「明るさ」、後半で「やさしさ」を出すために、後半は音を徐々に下げています。

二人でつくる段階（8時目）

A児	B児	C児
つくった音楽にタイトルを付けることができたか。		
<p>●音楽にタイトルをつけましょう。 <u>元気出して</u></p>	<p>●音楽にタイトルをつけましょう。 <u>森の音楽</u></p>	<p>●音楽にタイトルをつけましょう。 <u>ジェットコースター</u></p>
<p>「元気だして」と2回繰り返し呼び掛けができるように、1、2小節を反復しています。</p>	<p>「森の音楽」というタイトルで小鳥の鳴き声をイメージし、リズムを工夫しています。</p>	<p>反復を使って前半と後半のイメージが変わるようにリズムを工夫しています。</p>
タイトルと表現の工夫を結び付けることができているか。		
<p>はじめてのリズムのところが「元気だして」のリズムになるようにしました。</p>	<p>まずは感じを出すためにタンギングを多く使ったリズムにしてみました。</p>	<p>●工夫したことをかきましょう。 音符を大きくしたり小さくしていくようにしました。 山あり谷ありジェットコースター</p>
<p>言葉のリズムを使って「元気出して～」と歌うことができるようなリズムの工夫をしています。</p>	<p>「森の音楽」で、小鳥が鳴いている声表現するために、タンギングを多く使うリズムに工夫しています。</p>	<p>1、2小節目を反復し、前半と後半で雰囲気の違いの違う表現にしています。</p>

一人でつくる段階（9時目）

A児	B児	C児
音楽にタイトルを付けることができたか。		
<p>●自分の音楽にタイトルをつけましょう。 <u>ありがとう</u></p> <p>「ありがとう」</p>	<p>●自分の音楽にタイトルをつけましょう。 <u>きれいな森の音</u></p> <p>「きれいな森の音」</p>	<p>●自分の音楽にタイトルをつけましょう。 <u>チョコレートの表現</u></p> <p>「チョコレートの表現」</p>
<p>7、8時目では、元気な音楽をつくるために①の伴奏を使いましたが、9時目では、感謝の気持ち伝えるために、ゆったりとした②の伴奏を選び「ありが</p>	<p>7、8時目では、「楽しい、はずむような音楽」をつくりたいと考え、①の伴奏を選びましたが、9時目では、「きれいな森の音楽」を表現するために、②</p>	<p>7、8時目で、1、2小節目を反復することにより、前半と後半に、雰囲気の変化ができるを知りました。そこで、9時目では、同じように1、2小節目を</p>

<p>とう」というタイトルの音楽をつくりました。7、8時目で学んだことを生かし、違う雰囲気音楽の音楽づくりにも取り組んだと考えられます。</p>	<p>の伴奏を選んでいきます。しかし、②の伴奏に合わせて演奏すると、音楽が落ち着き過ぎたので、後半のリズムを軽快な感じになるよう工夫しています。</p>	<p>反復し、更に、前半と後半で伴奏を変えることにより、旋律と伴奏の雰囲気が合ったものになるように工夫しています。</p>
<p>タイトルと表現の工夫を結び付けることができたか。</p>		
<p>●工夫したことをかきましょう。 </p>	<p>●工夫したことをかきましょう。 </p>	<p>●工夫したことをかきましょう。 </p>
<p>「ありがとう、ありがとう、元気になったよ」という歌詞に合うリズムにしています。7、8時目で作った音楽と似たような旋律にすることで、問いと答えの関係になる音楽をつくっています。</p>	<p>1、2小節目を反復し、落ち着いた感じにしましたが、「きれいな森の音」には楽しさも感じられるので、後半は八分音符を使って軽快なリズムに工夫しています。</p>	<p>7、8時目は、旋律が下がっていく音楽をつくりましたが、旋律が上がると、雰囲気も盛り上がる音楽になることを友達の工夫から学び、「おいしい」を表現するために、旋律が上がっていく表現にしています。</p>
<p>ありがとう 作曲 </p>	<p>きれいな森の音 作曲 </p>	<p>チョコレートの表現 作曲 </p>
<p>7、8時目で作った「元気出して」の音楽とつなげて、問いと答えの関係になる2曲の音楽を完成させました。友達と二人で歌って楽しむことができる音楽をつくっています。</p>	<p>森の音楽の落ち着いた感じを表現するために、低い音を使っています。7、8時目で学んだことを生かし、旋律の終わりを「ミ」にすることで、森の音楽の静かさを表現しています。</p>	<p>前半は、ゆったりとしたリズムと伴奏で、チョコレートのまったりとした感じを表現し、後半は八分音符と伴奏①を使って、「おいしい、うれしい」気持ちを表現しています。</p>

児童のワークシートの記述やつくった音楽から、上記のように8時目よりも9時目の方が、タイトルや表現の工夫が高まったり、広がったりしていることが分かります。

しかしながら、7時目に伴奏の雰囲気の違いを感じ取ることができなかった6%の児童は、8時目にタイトルを付けることができなかった6%の児童であり、聴き取り、感じ取りが不十分である児童は、表現も不十分になる傾向にあることが分かりました。7時目の聴き取り、感じ取りの過程から個人差が生じないように、十分な支援を行う必要があると考えられます。また、児童の工夫を全体で取り上げ、学級全体で共有できるようにしていく必要があると考えます。

以上のことから、表現領域の3分野の関連を図った題材構成を工夫し、「音楽づくり」における指導過程を工夫したことは、児童が「音楽の縦と横の関係」を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすことに有効だったと考えます。

しかしながら、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」のどの音楽活動においても、「音楽の縦と横の関係」を聴き取る力には、個人差が大きく見られました。具体的には、「音楽づくり」の7時目に伴奏の雰囲気の違いを感じ取ることができなかった6%の児童は、8時目にタイトルを付けることができなかった6%の児童であり、聴き取り、感じ取りが不十分である児童は、表現も不十分になる傾向にあることが分かりました。「音楽の縦と横の関係」を取り上げて指導する際には、聴き取り、感じ取りの段階から個人差が出ないように、個別の支援内容やグループ編成を工夫する必要があります。また、その手立てとして、聴き取り、感じ取ったことを、学級全体で共有させるのは有効です。具体的には、「音楽づくり」の7時目で、聴き取りができなかった6%の児童は、共有化を図ったことで、次の段階で音楽づくりに見通しをもち、自分のつくりたい音楽に合った伴奏を選ぶことができるようになっています。

さらに、自分の音楽に満足しなかった児童(10%)について、満足しなかった理由が発展的な音楽づくりを望むものであったことから、「音楽の縦と横の関係」を取り上げて指導する際には、聴き取り、感じ取る力や、それらを表現する力が優れている児童への対応も行っていく必要があると考えます。

2 研究の実際

(5) 検証授業の分析

イ 聴き取り、感じ取ったことを表現に生かす発問工夫について

検証の視点2

児童が、「音楽の縦と横の関係」を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすことができるように、発問を工夫できたか。

《 全体の考察 》

《 7時目 》

- a 「音楽の縦と横の関係」を聴き取らせ、その働きが生み出す音楽のよさや面白さ、美しさなどを感じ取らせる発問
- b 聴き取り、感じ取ったことを基に、表す音楽表現についての方向性を全体で共通理解させ、見通しをもたせる発問

結果と考察

a の発問について

資料 10 は、児童が、それぞれの伴奏から感じ取った内容です。

伴奏①については、「飛び跳ねる感じ」「元気な感じ」、伴奏②については、「なめらかな感じ」「ゆったりした感じ」と表現している児童が多くありました。これらの内容は、それぞれの和音伴奏のよさを捉えたと考えることができます。

また、これらの児童の中には、「音の高低」や「後奏」にも着目している児童がおり、「音が高いから、やさしい感じがする」「後奏があるから、しんみりした感じがする」などの感じ取りをしている児童も見られました。

一方で、この2つの伴奏の違いを見いだせない児童もおり、ワークシートには、伴奏①、②について同じ内容の表現(「明るい」と「明るい」、「楽しい」と「楽しい」)が見られました。十分な個別の支援が必要だったと考えられます。

b の発問について

資料 11 は、伴奏から感じ取ったことを基に、児童が、つくりたい音楽について、見通しをもった内容の一部です。

使用する伴奏については、「伴奏①を使用する」が約7割で、「伴奏②を使用する」が3割でした。

★今から2つのパターンの伴奏を聴きます。それぞれの伴奏から、どのようなことを感じますか。

〔伴奏①〕

- ・飛び跳ねる感じ。
- ・元気な感じ。
- ・付点のリズムが楽しい。
- ・低音が力強い感じ。
- ・後奏がなく、歯切れよく終わっていて盛り上がっていく感じ。

〔伴奏②〕

- ・なめらかな伴奏
- ・旋律のような伴奏
- ・ゆったりした感じ。
- ・静かさがある。
- ・高い音が出ているので美しさを感じられる。
- ・後奏があって、しんみりした感じ。

資料 10 児童が感じたよさ

★どちらの伴奏を使って、どのような音楽をつくりたいですか。

〈伴奏①を使って〉

- ・元気が出てくるような音楽をつくりたい。
- ・朝の感じを表現したい。

〈伴奏②を使って〉

- ・静かな海のイメージで音楽をつくりたい。
- ・夏の終わりの寂しさを表現したい。
- ・のどかな春の雰囲気音楽にしたい。

資料 11 児童の見通し

伴奏②よりも、伴奏①を使用する児童数が多かったのは、児童にとって、明るく軽快な音楽をつくる方が、楽しく魅力的なことが考察されます。また、伴奏②については、使用する児童数は少ないものの、既に、資料 11 にあるように、具体的な音楽のイメージを考えている児童がほとんどで、比較的、音楽の技能が高い児童と考察できます。また、ハ長調の和音伴奏であるにもかかわらず、「悲しいイメージ」の音楽をつくりたいと考えた児童は、この段階で旋律の具体的なイメージをもつことができている児童と考察できます。このような児童の実態を把握した上で、個に応じた支援を行うことが必要だと考えられます。

《 8 時目 》

a 見通しを表現工夫につなげさせ、b 表現を工夫させながら、思いや意図をもたせる発問

結果と考察

a の発問について

資料 12 は、児童が考えたリズムの工夫です。指導者とのやりとりの中で、児童は「明るくどんどん楽しくなる」ためのリズムの工夫について、 より  や  の方が、より思いが表現できることに気付きました。

また、仕上がった旋律を聴いて、全ての児童が「明るく楽しい旋律に変わった」と意思表示したことから、「明るくどんどん元気になる」ための表現の工夫が共通理解できたと考えられます。これらのことから、リズムの工夫を全体で行ったことは効果的だったと考えられます。

多くの児童が、このリズムの工夫の場面で学んだことを、自分の音楽づくりに生かすことができていました。

★「明るく、どんどん楽しくなる」音楽にするために、二分音符をどのようなリズムに変えたらよいでしょう。

- ・  を  に変えるより  の方が楽しい感じがするね。
- ・  に変えたらどうかな。リコーダーで演奏してみよう。
- ・ 1小節目と3小節目に「反復」を入れたいな。

資料 12 児童が考えたリズムの工夫

bの発問について

資料 13 は、児童が考えたタイトルとその工夫の内容の一部です。

児童は、タイトルを付けることによって、自分の音楽表現がタイトルと一致するものになるようリズムの工夫を重ねました。児童の記述より、前時で「○○な音楽をつくりたい」とイメージしていた見通しが、「○○を△△することで□□を表現する」という具体的な思いや意図を示す内容に深まっていることが分かります。

しかし、時間内にタイトルを付けることができない児童が6%いたことから、タイトルを選ばせたり、友達から助言してもらったりするような手立てを用意しておく必要があると考えられます。

bの発問について

資料 14 は、タイトル当てクイズの中で、児童が発言した内容です。

児童は、比較聴取をしながら、どちらが、どのタイトルなのかを根拠をもって考えました。そして、リズムの工夫とタイトルとを結び付けながら、友達の表現の工夫やよさに気付き、次時の自分の音楽表現に取り入れようとする様子が見られました。これらのことから、タイトル当てクイズは、児童の思いや意図を深める発問として、効果的だったと考えられます。

児童の発言内容からは、児童が、リズムの工夫だけではなく、旋律の音の動きや、伴奏の感じからタイトルを考えたことが考察されます。児童は、このように音楽を特徴付けている複数の要素を関連付けて、音楽の特徴について考えることが分かります。

★つくった音楽にタイトルを付けましょう。

- ・タイトル「はずんでいる気分の朝」
…  を反復して、はずんだリズムにした。
- ・タイトル「夜の星空」
…  を反復して、星空の広さを表した。
- ・タイトル「スキップ気分」
…  を1回とばしに入れて飛びはねる感じにした。

資料 13 児童が考えたリズムの工夫

★今から紹介する2曲の音楽のタイトルは、「目覚まし時計」と「広い草原」です。どちらが、どのタイトルだと思いますか。また、なぜ、そのタイトルだと思いましたか。

【目覚まし時計】

- ・「目覚まし時計」は、 のところが、目覚まし時計のベルのような感じがする。
- ・はじめが  とゆったり始まって、次に  の細かいリズムで盛り上がっていて、目覚まし時計で起こされている感じがする。
- ・旋律の音が上がっていて、朝の始まりが感じられる。
- ・伴奏①から、元気な感じがする。

【広い草原】

- ・ のところが、ゆったりしていて広い草原の感じが表れている。
- ・ の後に  が続くところが、更にのんびりした感じがする。
- ・音の動きが少なくて落ち着いた。
- ・伴奏②で、広い草原に合っている。

資料 14 タイトル当てクイズの内容

《9時目》

a 音楽表現を工夫しながら、どのようなことに注意すればよいのかに気付かせる発問

結果と考察

aの発問について

資料15は、前時までの学習を振り返り、自分の音楽づくりについて、児童が、手順や活動内容を自分なりに工夫をしたものです。活動内容を自分に合ったものに工夫することで、児童は必要に応じて掲示していたワークシートを参考にするなど、主体的な音楽づくりの学習をすることができていました。

これらのことから、これまでの学習を生かし、自分の音楽づくりの手順や活動内容を工夫させるための発問は、効果的だったと考えられます。児童は、伴奏付きの音楽をつくるために、どのようなことをすればよいのかを再確認し、更に、自分に合った音楽づくりの活動内容を工夫することで、音楽づくりの技能を習得できたと考えられます。

しかし、自分の音楽づくりに集中しすぎて、助言のほとんどは、全体発表の場面で見られる傾向にありました。音楽づくりに没頭する中にも、感想交流を行う場面を設定する必要があると考えられます。

aの発問について

資料16は、児童が考えたタイトルとその工夫の内容の一部です。

児童は、タイトルを付け、表現の工夫と結び付けることによって、「○○を△△することで□□を表現する」という思いや意図を深めることができていました。児童は、前時までの学習内容を活用しながら、より具体的なタイトルと表現の工夫ができたした。

これらのことから、再度、タイトルを付け、工夫したことを書かせるための発問は、思いや意図を表現する技能を身に付けさせる発問として効果的だったと考えられます。児童は、前時までの学習を生かし、思いや意図を表現する技能を高めることができたと考えられます。

★今日は、前時までの学習を生かし、自分でオリジナルの音楽をつくります。あなたは、どのような手順で、どのようにつくっていきますか。

- ・前時までの活動の流れでつくる。○○さんの旋律の工夫を参考にしたい。
- ・伴奏を選んだら、まず、タイトルを決めて旋律をつくるようにする。
- ・リズムの工夫は、伴奏と合わせて演奏しながら考える。

資料15 児童の音楽づくりの活動の工夫

★つくった音楽にタイトルを付け、工夫したことを書きましょう。

- ・タイトル「朝から元気なお母さん」
- …1小節目に八分音符を続けて、朝からバタバタしているお母さんの様子を表現しました。旋律の音が上がっていくので、伴奏と合わせると、元気さを感じます。

資料16 タイトルと表現の工夫

aの発問について

資料17は、これまでの学習を振り返り、児童が、今後の学習に生かしたいことについて考えた内容です。

児童は、今後の学習に生かしたいことを考えながら、さらに、自分の思いや意図を表現するために、今後、どのような技能を習得すればよいかに気付くことができました。

また、友達の発表を聞きながら、友達の意見を参考に、今後の学習についての見通しをもったり、考えを深め、広げたりすることができました。

これらのことから、児童に、今後の学習に生かしたいことを考えさせるための発問は、効果的だったと考えます。

しかし、今後の学習について見通しをもつことができている児童がいる一方で、意欲の高まりに終わってしまう児童もあり、気付きの内容には、大きな差が見られました。今後の学習の見通しについて、自らが考えようとする態度を育成していくことが大切だと考えられます。

★学習を振り返り、あなたは、どんなことを これからの学習に生かしたいと思いましたか。

- ・音楽は、縦の重なりがあるときれいで面白くなる。いろいろ試して、「音楽の縦と横の関係」を自分でつくることができるようになりたい。
- ・歌ったり、演奏したりするときに、「音楽の縦と横の関係」を気を付けるときれいになることが分かったから、自分のパートだけではなくて全体を聴くようにしたい。

資料17 今後学習に生かしたいこと

これらのことから、児童が「音楽の縦と横の関係」を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすことができるように、発問を工夫したことは有効だったと考えます。

7時目の実践より、どのような音楽をつくりたいのかの見通しをもつ段階で、音楽づくりの技能が高い児童を大体見取ることができることが分かりました。これらの児童を中核にしてグループ編成を工夫したり、表現の工夫を全体で取り上げることができると考えます。また、9時目で、個人差はあったものの題材全体を振り返らせることで、児童は、今後の学習に見通しをもち、意欲を高めることが分かりました。したがって、題材のまとめとなる発問を、題材の終末に行うことは有効だと考えます。

2 研究の実際

(5) 検証授業の分析

ウ 児童の意識調査

検証の視点 2

児童が「音楽の縦と横の関係」を音楽活動に生かしていこうとする意欲は高まったか。

《全体考察》

結果と考察

図19は、音楽の縦と横の関係について、児童に行った意識調査の結果です。

検証授業前は、「音楽の縦と横の関係が分かる」と回答した児童は6%で、その内容は、リズムの重なりに着目したもののみでした。また、「音楽の縦と横の関係という言葉は知っているが、意味が分からない」と回答している児童もおり、児童にとって、音楽の縦と横の関係が学習する上で、身近なものではないことが分かります。

検証授業後のアンケートでは、図20のように、「音楽の縦と横の関係が分かる」と回答した児童は、82%に増加しています。内容も、音の重なり、和音、旋律の重なり、伴奏と旋律の関係、リズムの重なりなど多様になっています。しかし、12%の児童は、検証授業後も「分からない」と回答しており、音楽活動の中で使う経験を重ねてはきたものの、やはり言葉で説明したり、具体例を考えるのは難しいと考えられます。

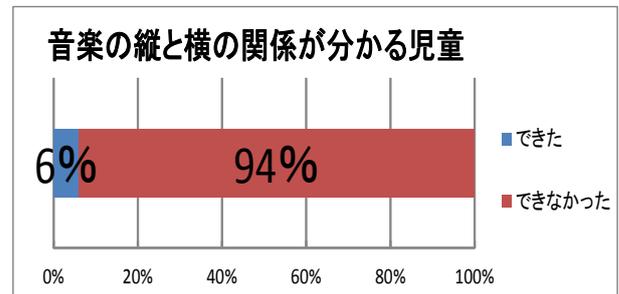


図19 音楽の縦と横の関係(検証授業前)

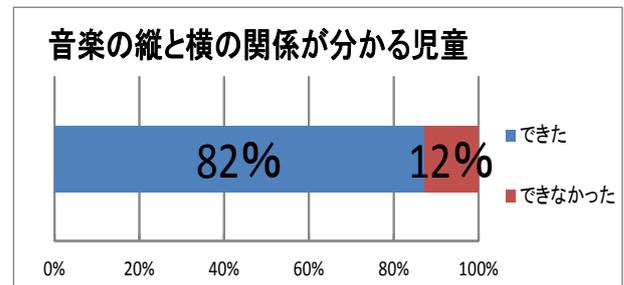


図20 音楽の縦と横の関係(検証授業後)

図21は、「音楽の縦と横の関係を学習に生かしているか」について、児童に行った意識調査の結果です。

検証授業前は、「音楽の縦と横の関係を学習に生かしている」と回答した児童は36%で、その内容は、リズムの重なりに着目したものでした。「音楽の縦と横の関係が分かる」と回答した児童が6%だったのに対し、学習で生かしていると回答した児童が36%だったことから、児童は学習に生かしているが、意味の説明はできない状態であることが考察できます。また、音楽の縦と横の関係は、リズムの重なりだけではないことを理解しており、「音楽の縦と横の関係を知っている」とは言い難いことを認識していたと考察できます。

検証授業後のアンケートでは、「今後の学習に音楽の縦と横の関係を生かしていきたい」と回答した児童が、図22のように98%に増加しています。

このことから、児童は、「和音の美しさを味わおう」の題材で、音楽の縦と横の関係を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かしながら、音楽の縦と横の関係を理解することができたと考えられます。また、「和音の美しさを味わおう」は、音楽の縦と横の関係を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすのに適した題材であったことが考察できます。

以上のことから、題材全体の指導を通し、児童の「音楽の縦と横の関係」を音楽活動に生かしていこうとする意欲は高まったと考えます。

しかし、「音楽の縦と横の関係」は、児童にとって聴き取りが難しいため、児童が自ら音楽活動で生かすことができるようになるためには、聴き取る力を、今後、更に向上させ、活用できる力にしていく必要があると考えます。

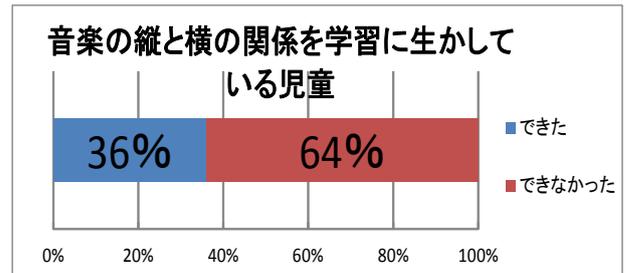


図21 学習に生かしている(検証授業前)

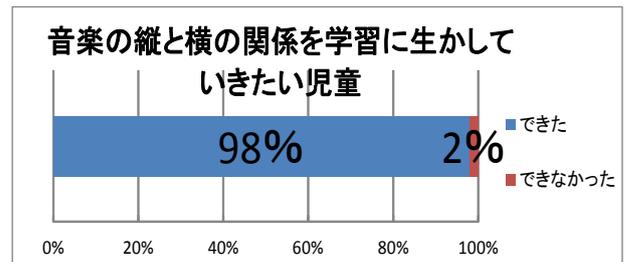


図22 生かしていきたい児童(検証授業後)